

しもひらおおの いせき  
下平大野A遺跡（第2次）

国道 475 号東海環状自動車道建設事業に伴い、5 月からいなべ市北勢町下平字大野地内で行っていた現地での発掘作業が終わりました。



下平大野 A 遺跡遠景（南から撮影）



塚墓（指でさしているのが中央の穴）

今回の発掘調査では、遺構として、室町時代頃に造られたとみられる塚墓（四周を溝で区画し、内側に盛土をして塚としたお墓）と、縄文時代の竪穴建物が発見されました。

塚墓は、後世の削平のため盛土が消滅していましたが、区画内に直径70cm、深さ1mの穴があり、ここに埋葬されたとみられます。

周囲の溝から室町時代頃（700年前～500年前）の常滑焼の甕<sup>とこなめ かめ</sup>の破片が出土しています。この墓が単独で存在することや、盛土を伴う労力のかかる造墓<sup>ぞうぼ</sup>を行っていることから、当地の有力者の墓であると考えられます。

一方、縄文時代の竪穴建物は、残りが悪く、一部しか確認できませんでしたが、円形の竪穴建物とみられ、石器が複数出土しました。また、遺構に伴うものではありませんが、調査区あちこちから石器や石器を作る際の破片（=剥片<sup>はくへん</sup>）が出土しました。石器の中には旧石器時代末期～縄文時代早期までのものとみられる有茎（舌）<sup>ゆうけい ぜつ</sup>尖頭器<sup>せんとうき</sup>の先端部分もありました。石器石材は、大半が地元でも入手できるチャートという石でしたが、地元には産出しないサヌカイトという石のものもみつかり、遠隔地との交流がうかがわれます。

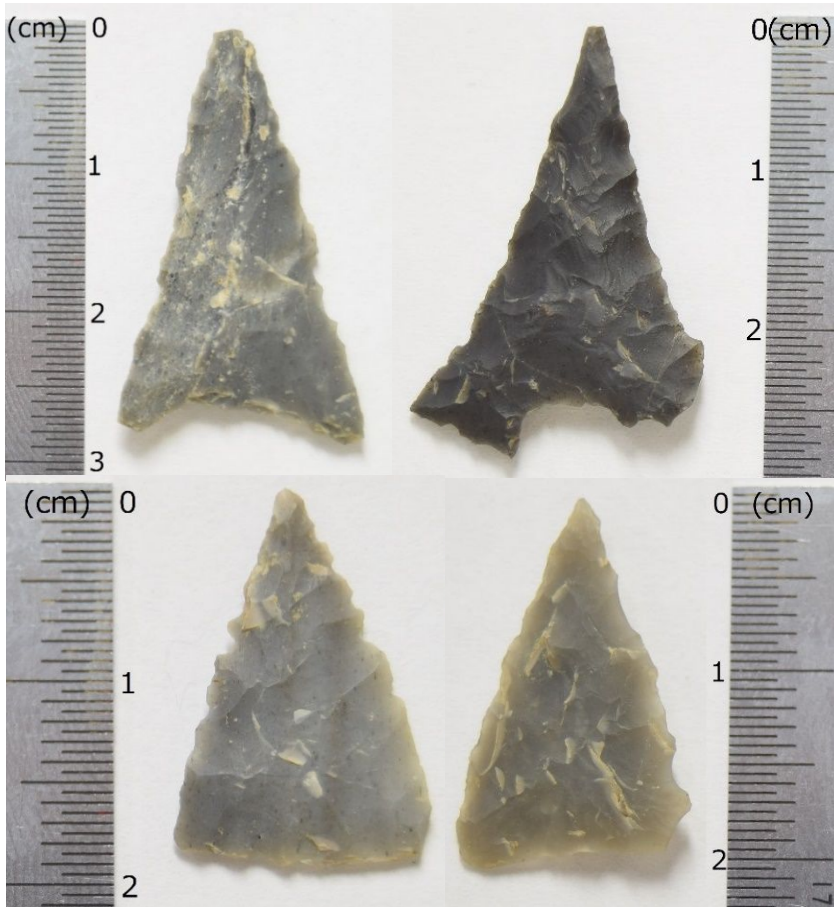


白い実線で表示した部分が今回の調査で確認できた部分です。  
白い点線は想定される竪穴建物の範囲です。

竪穴建物（上空より撮影、写真下が西）



有茎（舌）尖頭器 実線は全形（推定）を表しています。



せきぞく  
石鏃(チャート製)



はくへん  
剥片(サヌカイト製)

**<問い合わせ先>**

〒511-0415 いなべ市北勢町東貝野454番地

三重県埋蔵文化財センター - 調査研究4課 いなべ整理所

担当者：勝山孝文、河瀬敏也、上野正貴

電話番号：0594 - 72 - 8955      FAX：0594 - 72 - 8970      e-mail：maibun@pref.mie.lg.jp